

(1) 科目の紹介

基本情報	平成 24 年度・教養教育・後期・2 単位	曜日・校時	金 1
モジュール名	ことばと文化	科目名	マスメディアと表現
教員名 (所属)	橋本 健夫 (大教センター)	高橋 信雄 関口 達夫	教室 新棟 6
受講者数	88 名	1 年生の	医学部 歯学部 工学部 環境科学部
うち再履修数	0 名	所属学部	(47名) (7名) (15名) (19名)
<p>授業のねらい：</p> <p>文化は作られると同時に伝えられ、深化していくものである。この伝達に大きな役割を果たしているのがマスメディアである。日常の媒体となっている新聞やテレビに焦点を当て、そこで用いられる表現方法を理解するとともに、それらをどのように受け取るべきなのかを考える。</p>			
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：</p> <p>① 88名の受講生を8名毎の11班に編成した。このとき各班に各学部（医、歯、薬、工、環）の受講生が存在するようにした。</p> <p>② 授業を受ける際は班毎に座ることとし、活動も班毎に行った。</p> <p>③ 予習課題を課し、それをもとに授業を展開するようにした。</p> <p>④ 授業資料は毎回印刷し、配布した。（前半）</p> <p>⑤ 後半は「フロントランナー」のCDを作り、それをもとに授業を展開した。</p> <p>⑥ 班毎のプレゼンテーションや個人でのプレゼンテーションを行った。</p> <p>⑦ 各プレゼンテーションは全員が採点した。</p> <p>⑧ 上位3位になった班には賞を与えた。</p>			

(2) 学修の評価

到達目標	<p>①マスメディアが社会の事象をどのように取り上げ、表現するかを理解する。</p> <p>②マスメディアからの発信をどのように受信すれば良いかを理解する。</p> <p>③自己の意見を持ち、それをどのように発信すれば良いかを理解し、実践できる。</p>
成績評価の方法	予習課題 (30%)、授業での発表 (40%)、論述テスト (30%)

(3) 授業の進行

概要：		
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）
1	（橋本、関口、高橋） 本授業のねらいを説明するとともに、各担当者のこの授業に対する想いを紹介する。そして、各担当者の内容を知らせ、課題等を提示する。	各教員の授業に対する想いを述べ、 若干の意見交換を行う。 （授業の目標、方法を明らかにする）
2	（高橋、橋本） 市民にとってマスメディア（新聞）の役割は何かを具体的事例を挙げて議論する。	新聞記事をもとに各班での議論を促し、発表させる。 （グループ対議と発表）
3	（高橋、橋本） 新聞の論説をもとに議論する。	数種類の新聞の論説を読み、意見の違いを確認し合う。 （グループ対議と発表）
4	（高橋、橋本） 論説や記事から読み取れることや新聞の役割について考える。	今までの議論を教材として新聞の役割について考える。 （グループ対議と発表）
5	（関口、橋本） 日常生活におけるテレビの役割について議論する。また、受講生がある事象を取り上げ、それをどのように表現していくかについて考えるとともに発表する。	テレビの役割についてグループ対議と発表
6	（関口、橋本） 市長襲撃のテレビを放映し、それについて議論する。	テレビの視聴とグループ対議 そして発表
7	（関口、橋本） 被爆者の生きざまについてのテレビの視聴と意見交換。	テレビの視聴とグループ対議 そして発表
8	（橋本） プレゼンテーションの役割とその効果的な方法について考える。	講義形式ではあるが意見も求める。
9	（橋本） 「フロントランナー」を教材にして、学生一人一人が興味を持った人を紹介する。	課題となっていた「フロントランナー」の中で最も興味をひいた人を紹介し合う。 （グループ対議）

10	(橋本) 「フロントランナー」を教材にして各班での対議 各班のフロントランナーについてのプレゼンテーションを作成する。	各班で紹介するフロントランナーを決め、プレゼンテーションの方法を話し合う。 各班が紹介するフロントランナーを決め、そのプレゼンテーションの作成を行う。
11	(橋本) 〃	〃
12	(橋本) 各班のフロントランナー（Ⅰ）のプレゼンテーション	準備したフロントランナー（Ⅰ）を各班毎に紹介する。 (プレゼンテーション)
13	(橋本) 各班のフロントランナー（Ⅱ）のプレゼンテーション	準備したフロントランナー（Ⅱ）を各班毎に紹介する。 (プレゼンテーション)
14	(橋本) 今までのプレゼンを統括し、プレゼンの内容・方法について考える。	講義 (プレゼンの為の要素を分析し、その効果的な組み立て方を考える)
15	(橋本、関口、高橋) 個人毎のフロントランナーを紹介する。	課題となっていた自分をフロントランナーとみなしてのプレゼンを8名選び、そのプレゼンを行う。
16	テスト	メディアとことばについての基本的な問いに答える

(4) 授業の成果

全体の総括	グループ対議においては盛り上がっている班とそうでない班があったが、与えられた課題には大体取組んでいた。
今後の改善点	もう少し、課題を自分のものとして捉え、取組むように学習展開を考えたい。また、遅刻が多いのも課題である。

(5) アクティブ・ラーニングの充実にに向けた提案

ポイント提案	①「フロントランナー」のCDは好評だった。学生たちに身近に感じられる教材の作成が必要。 ②授業公開を積極的に活用する。
参考になる資料	参考になるかどうか分からないが、授業公開時に作成した資料を別添資料として揚げる。

(別添資料)

授業公開の時の資料